

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着ピークは8月下旬～9月上旬

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) サンカクフジツボ

8月20日に付着直前のラーバが久栗坂沖で2.2個体/m³、川内沖で3.9個体/m³見られました(表1、図2、3)。

(2) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません(表1)。

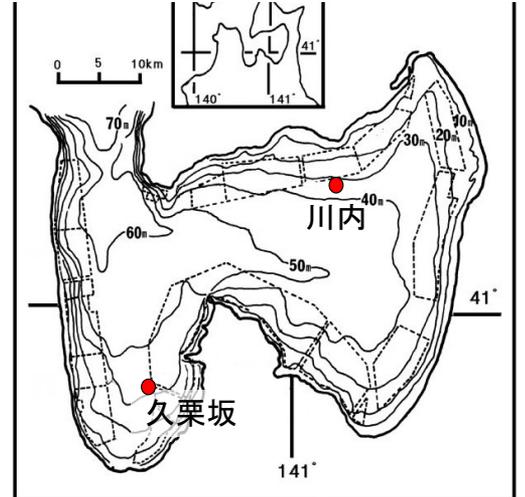


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

(1) サンカクフジツボ

付着直前のラーバ(図2)が増加してきました。**9月上旬にかけて付着のピーク**となり、10月以降にはほとんど見られなくなることが分かっています(図3)。

殻長1mm未満の小さいサンカクフジツボは**稚貝分散時に選別機を用いることで約7割落ち**ることが分かっている(図4)ので、ラーバ出現のピークが過ぎてから分散作業を始めましょう。

表1 ラーバ等の出現状況		単位: 個体/m ³	
調査地点	調査月日	サンカクフジツボ	ユウレイボヤ
久栗坂沖	R3.8.20	2.2	0.0
川内沖	R3.8.20	3.9	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

(2) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は21℃前後となっています。ユウレイボヤは**水温20℃以下で産卵**するので、10月以降にラーバの出現と付着が始まるものと思われます。

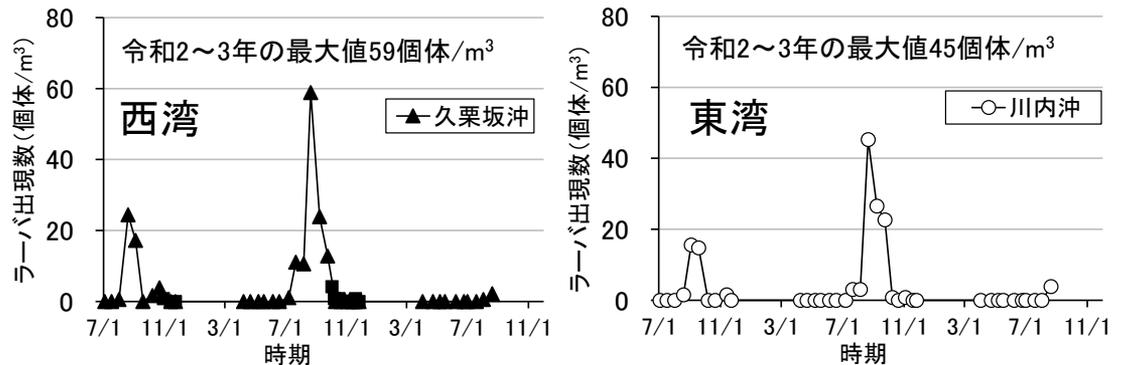


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移(令和1年7月～令和3年8月)

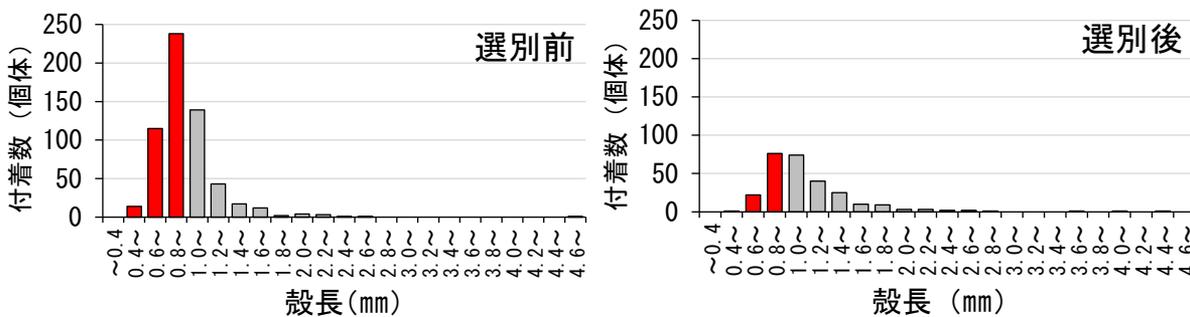


図4 令和2年9月の久栗坂沖における選別前後の稚貝1枚に付着したサンカクフジツボの付着数(左は選別前、右は選別後)



図2 付着直前のサンカクフジツボラーバ(キプリス幼生)

